

やすらぎ

特養居住者
佐々木アキノ 筆

第3号

発行 平成11年 3月25日
社会福祉法人やすらぎ会
編集 広報委員会



『つるはせんねん、かめは〜』

〈寮父母が作ったかるたでお正月を楽しむ特養住民〉

◆特別養護老人ホームぶなの園 ◆沢内村デイサービスセンター
◆沢内村在宅介護支援センター ◆ホームヘルプサービス事業
沢内村大字太田第2地割135番地 ☎0197-85-2322

◆沢内村高齢者生活福祉センターかたくりの園
沢内村大字大野第17地割140番地1 ☎0197-85-3388



秋も過ぎ、事業開始後、半年も経て特養職員にも住民五〇人への入居介助等の基本的な生活援助にも余裕がでてきました。そこで、住民の声なども伺い喫茶店を開くことになりました。

一月末の開店に向けて二ヶ月からの住民を対象に行った嗜好調査に始まり、メニューの決定、必要物品の購入、宣伝など、様々な準備を行ってきました。

事前の話し合いの中では、雪の降る中、停留所もないこんな所までわざわざお茶を飲みに来て頂ける人が果たしてあるのだろうか。との不安もありました。が、二回目の二月は民生委員さんなどもご招待し、賑やかに交流して頂きました。

初めての接客業は、不慣れさも手伝って住民と会話しながらとはいかず、器と食品と食券のにらめっこでした。

住民とお客様の間では、和やかに言葉が交わされ唯一の目標である『住民と地域の方とのふれあいの場の提供』と



あま〜いケーキに思わず舌鼓

いう面に関しては、少しずつ役に立っているのではないかと思っております。

今後も、反省と改善に努めながらアイディアを出し合い親しんで頂ける喫茶を目指したいと思います。

雪が消えても、皆様のやすらぎの場としてご利用頂きますようお願いいたします。

最後に深沢洋子様をリーダーとするボランティアの方々のご協力あってこそその成功です。今後もよろしくお願い申し上げます。

〈寮母 石川正由子 記〉

本人が望む 誕生日の お祝いを

ぶなの園では、住民の誕生日をその日に、本人の希望(欲しい物、食べたい物、行きたい所、やりたいこと等)を聞いて、可能な限り実現できればと一月より始めました。

今まで沢山の誕生日をしてきた中で、何人かの様子をご紹介します。

八三歳を迎えたKさんは、寝たきり状態が長く、北上のご自宅に帰省することも困難でした。しかし誕生日という事で指導員と寮母が付き添い車で二時間、懐かしの我家に着きました。Kさんの家には仙台からわざわざ来ていらした娘さんや近所の方もたくさんおいで頂き、本当に皆さん喜んで頂きました。

八八歳のYさんは、お嫁さ



お祝いに踊りを披露する寮父母

んと一緒に車椅子で碧祥寺博物館の見学。昔懐かしい道具類をしみじみと眺めていました。

その後楽しみにしていたパレードのお風呂にゆつたりと入り、湯上がりはのれんの前でいいお顔で記念写真を撮って来ました。

病気のため居室から出ることもできない八十一歳のOさんは意思表示ができません。ご家族と相談し、昔から好きだった民謡で、奥様の粋な舞と私達寮母の下手な沢内甚句の踊りを、披露させて頂きました。息子さんはお返しにとオカリナの演奏をして下さり、優しい音色のメロディにOさ

んも他の皆さんもうつとりと聞き入っていました。

今後も、皆さん喜んで頂けるよう、楽しい思い出を残せるよう、そして何よりいい

もうすぐ一年

住民五〇人

手を取り合って

昨年四月に、初めての住民となる方を迎えて、もうすぐ一年になります。そこで、現在生活されている五〇名の住民の方々の生活をご紹介致します。

今年二月末現在、平均年齢は八〇、五四歳です。その年齢構成を見ますと、八〇代が一九名と最も多く、次いで七〇代が一七名、九〇代が八名、六〇代が六名となっております。最も高齢の方は九五歳、最も若い方は六四歳、その年齢差は三一歳と、ごく普通の一般家庭での親と子ほどになっております。

表情を見せて頂けるように住民の希望の誕生日を続けていきたいと思っております。

〈寮母 近藤富子 記〉

出身地別に見ると、沢内村の方が三六名、湯田町と北上市の方がそれぞれ七名ずつとなっております。

性別に見ますと、女性が三八名、男性が一二名です。女性の方が約八割近くを占めております。

最近では、食事にも仲良く揃って車椅子を押して来たりなどといった、住民相互に助け合う姿が見られたりします。

また、昨年九月からの理容、餅つき、ホーム喫茶、人形劇などへのボランティアのご協力による活動も増えてきています。

今後は、書道等のグループ活動、買物外出等精神的、文化的援助活動も、住民と共に考え、実施していくことを考えております。

〈生活指導員 高橋宏明 記〉

優しくとまごころのお手伝い

ホームヘルパーの一日を追って

ホームヘルパーの活動は、実際に利用している家庭でなければ、なかなか見かけることがないと思います。そこで、一人のヘルパーのある日の活動を追いつながら、一日の仕事の流れを、具体的に紹介していくことにします。



ヘルパー車に乗り込み訪問先へ出発

午前八時三〇分、特別養護老人ホーム「ぶなの園」内で行われる朝礼で、ヘルパーの一日はスタートします。朝礼はやすらぎ会の各部署のスタッフで合同で行われ、それぞれの一日の予定を報告し合います。朝礼の後は、各部署に分かれての打ち合わせ

です。ヘルパーステーションは在宅介護支援センターと同じ場所に設置されており、打合せには支援センターの職員も入って随時情報交換が行われています。打合せが終わるといよいよ訪問先へ出発。その日の天候

や家庭の都合に合わせて出発時間を調整し、ホームヘルパーのマークの入った車で、北へ南へと向かいます。佐々木愛子ホームヘルパーのこの日の訪問は、午前二軒午後二軒の計四軒。最初の訪問先は、寝たきりで褥瘡(床ずれ)のあるAさんのお宅。ホームヘルプサービスは週二回の利用です。この日は、もう一人のヘルパーと二人で組み、短時間の巡回的な訪問です。訪問看護や訪問入浴サービスなどと連携し、褥瘡部位の



利用者の表情からも体調をチェック

清潔保持に努め、非常に大きかった褥瘡がだいぶ回復してきたようでした。次に訪問したBさんも寝たきりで、おしりと足の褥瘡はかなり進行した状態でした。全身を温かいタオルできれいに拭き、脚部を中心にマッサージをして、拘縮を予防します。褥瘡部の処置の時には、痛みをこらえきれず「やめてける」の声に、私も同じ痛みを感じた思いでした。痛みも治まり、ヘルパーが帰る頃には「今度いつ来るの」と心待ちにしています。

午前の訪問を終え、ステーションに戻ってひとときの休息。一時間の昼休みはアツという間に過ぎてしまっています。午後、最初の訪問は入浴の介助。午前とは別のヘルパーと二人で

入浴できる状態が十分にチェックしてから始めます。全身を丁寧に洗い、ひげを剃り、注意深く浴槽のお湯の中へ。「利用者の気持ち良さそうな顔が何よりの楽しみ」と佐々木ヘルパー。入浴介助の際は、利用者が脱衣所で裸になつている時間を少しでも短くすることを心掛け、ヘルパー二人が役割をうまく分担して介助していきます。四軒目も身体介護中心で、全身清拭や手浴を行い、帰りの車に乗り込む頃には、すでに午後四時三〇分をまわっていました。

ヘルパーの仕事はここで終わりではありません。ステーションに戻った後、個人別台帳にその日の状態や援助内容を記入し、さらにヘルパー自身の業務日誌を整理します。朝礼と同じく全体での夕礼を行い、午後五時三〇分、一日の業務が終了となります。この日の佐々木ヘルパーの訪問は全て身体介護が中心でしたが、利用者の要求に応じて調理や洗濯、掃除などの家



居間の掃除をするヘルパー

事援助、あるいはひとり暮らしや高齢者世帯の安否確認を目的とする訪問もあります。平成一二年から開始される介護保険制度では、ある程度自立した生活ができること判断されれば、サービスを利用したくてもできなくなる恐れがあります。

一日の同行訪問を終え考えたこと、それは社会全体で高齢者の生活を支えていこうとするこの制度が、本当の意味で高齢者と介護する家族の生活と心の安定、安心につながる変革となつてほしいということ。そう願わずにはいられませんでした。(支援センター 高橋渉 記)

お世話になりました

村の職員として、これまでかたくりの園に勤務していた3名が、この3月をもって異動となり、かたくりの園を去ることになりました。開所以来、5年間かたくりの園に勤めたその3名の職員より、それぞれの思いをひとつ語って頂きました。

【看護婦 和泉裕子】

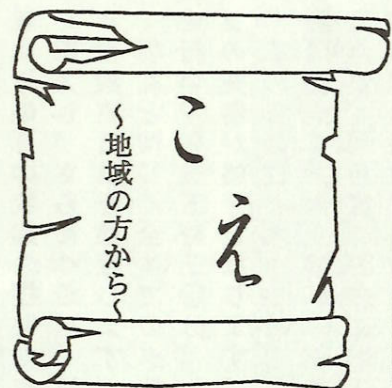
多くの皆様のご理解とご指導を頂きながら、利用者の方々のあたたかい笑顔に支えられて、かたくりの園が今日に至ることを大変うれしく思います。今後も、末長く村民の皆様から愛される施設となられますよう、お祈り申し上げます。

【生活指導員 高橋佳代子】

皆様に支えられながら5年間過ごしてまいりました。また、利用者の皆様には沢山のことを教えて頂き感謝しております。これらの経験を生かし、これからも頑張っていきたいと思っておりますので、より一層のご指導、ご鞭撻よろしくお願い致します。お世話になりました。

【生活援助員 佐藤陽子】

全てが初めてのことばかり、試行錯誤の5年間は貴重な勉強となりました。利用者の方々の今や昔話はとても興味深く、生きてきた時代こそ違いますが、同じ時を過ごすことができ楽しかったです。利用者、職員の皆さん、いろいろとお世話になり本当にありがとうございました。



「介護保険について
考える」

光陰矢の如しで、平成も一
年を迎えました。
諺に「二兎を追う者は一兎
を得ず」という言葉がありま
す。とかく人間は欲から失敗
することが多いようです。何
事もボランティア精神が大切
だと思えます。
今年はその兎年。兎は飛び
跳ねるが、あまり飛び過ぎず
また童謡の兎と亀のかけくら
べのように、油断しない。
今年は一、欲張らない。
二、飛び過ぎない。三、油断
しない。この三つを守り、そ
して健康が何よりの財産と思



長瀬野
高橋正慶さん

い明るいな年であることを祈る
一人です。
昭和三〇年代の頃かと思
いますが、「どこその人だア
老人ホームさ、連れてゆかれ
だどオ。あど帰られねエだ
ア」とか、いろいろと話題が
ありました。老人ホームとは
遠い所と思った時代でした。
それ以来四〇数年、子ども
が少なくなり高齢社会へと進
み、沢内もかなり高齢化が進
んでいます。
そんな時、沢内にも念願の
特別養護老人ホームができた
訳ですが、私たちが思ったよ
うに安易な気持ちでいられな
くなりしました。
それは、介護保険の問題で
す。平成一二年四月より導入

となりませんが、まだ村民全体
に浸透していないようです。
私が昨年、県社会福祉協議
会主催のシニアリーダー研修
会に参加した時の介護保険の
説明では、サービスを利用す
れば経費の一角が自己負担と
聞きました。
自動車の自賠責保険と思
い合いの助け合いだと思えば
ということでしたが、介護保
険料が地域によって差がある
とか、施設に入所しても金次
第だとか、問題だらけです。
お金で人を介護するものでは
ないと思えます。人柄、そし
て心。思いやりの心と譲り合
いの心が介護の基本ではない
でしょうか。
二〇世紀初め頃の唄を紹介
します。
『地主金持ちわがまま者で役
人なんぞは威張る者こんな浮
世へ生まれてきたが我が身不
運とあきらめる』
二一世紀もこんなものかと
思うと残念です。

なんでも Q & A

施設に直接ではありませ
んが村民の方から疑問が聞こ
えます。今回は面会や見学
についての質問にお答えし
ます。
《質問》ぶなの園は見学は予
約が必要だったり、面会では
面会簿への記入等があり訪問
しにくい。
《答え》本来の見学は単に建
物や設備をご覧になるだけで
はないと思えます。それらが
どのように使われているか、
又職員がどのような思いで働
いているか等お話をさせて頂
き建物等と業務内容を知って
頂いてこそ、本来の見学と考
えています。
例え施設の運営理念や内部
事情をご承知の方でも、見学
のご希望には施設職員が担当
するものと心得ています。
ただ村民の方が病院や役場
等へおいでのついでに、初め

時刻む モニュメント 三郵便局より 「安可 贈」

ぶなの園の前、県道からは
遠いですが、時刻を知らせる
モニュメントが建ちました。
ぶなの園が五〇人の住民を
中心に生活している感じが強
くなり、また、村民の方々に
見守られているという思いも
し心強い限りです。



ぶなの園の前に建つモニュメント

また来園される方は、時刻
の確認にもなると思えます。
このモニュメントは村内三
つの郵便局が郵便貯金の資金
を生かす県の計画に提案し、
採用されたそうです。
沢内の四季はその移り変わ
りが激しく、それに合わせて
時を刻むモニュメントはぶな
の園の象徴のひとつとなりつ
つあります。
ご尽力頂きました三郵便局
の皆さん、それから快く土地
を提供して頂いた佐々木喜代
見様、ありがとうございます。
（施設長 上野米子 記）

「もしも」に備えて... 避難訓練実施



雪の降る二月二十八日、施設
内で今年度四回目の避難訓練
が行われました。
住民三五人が、火災を想定
して施設東側に地域の方や職
員と共に車椅子、その他で避
難。その後は当日ご協力頂い
た北上消防署西和賀分署、太
田地域消防団、女性消防協力
隊の方々と搬送の訓練を受け
ました。

これを機会に職員だけでは
なく、近隣の地域の方々のご
協力をより頂きつつ防災の訓
練をし、住民の生命を守る活
動にしていく計画です。
地域の方々、ありがとうございます。
（事務 佐々木篤 記）

てだからとお越しになること
は差しつかえありません。
また、住民への面会の際の
名簿への記入ですが、これも
理由あつてのことです。
住民五〇人の方へは毎日の
ように面会があります。事務
所前で名簿にご記入頂きその
後、住民のお部屋へ行って頂
きます。この際、寮父母がた
まに気付かず、面会を終え帰
られた後で、住民の枕元に祝
金や果物等があつたりするの
です。こんな時、名簿から持
参された方を確認し、確かに
お預かりした旨をご連絡した
りします。
今後病院側の交流スペース
はホーム喫茶やその他、村民
の方々の会合等で、ご遠慮な
くお使い頂きたく考えていま
す。
いずれにしても、ぶな
の園には五〇人の住民が生活
され、私どもは生活の援助と
生命をお預かりする仕事をし
ておりますので「危機管理」
はせざるを得ないことをご理
解頂ければ幸いです。

◇新職員紹介◇

新年度を迎えるにあたり、当法人に三名の職員が新しく仲間入りしますので、ご紹介します。



吉田 美紀



高橋 公男



上中屋敷 陽子

どうぞよろしく

お願いします。

感謝申し上げます

- 平成一〇年一月以降
- 沢内村商工会婦人部 (タオル寄贈)
- 沢内村理容組合の皆様 (特養住民散髪)
- 高橋正慶様 (施設内修繕)
- 猿橋小学校様 (餅米寄贈)
- 沢内村理容組合の皆様 (特養住民散髪)
- 高橋正慶様 (施設内修繕)
- 新町婦人会の皆様 (施設訪問)
- ニコニコ座の皆様 (人形劇公演)
- 支援、ご協力 (ありがとうございました)
- 沢内村理容組合の皆様 (タオル寄贈)
- ボランティアグループ 『りんどう』の皆様 (タオル等寄贈)
- ボランティアグループ (ホーム喫茶・餅つき会協力)

編集後記

第3号からはページごとにコーナーを固定し、2～3ページを特養「ぶなの園」のコーナー、4～5ページを在宅の各事業のコーナー、6～7ページは地域を題材としたコーナーとし、法人内の出来事や状況をお知らせしていきたいと思ひます。

ご意見、ご要望がありましたら下記広報委員までお気軽にご連絡ください。

〈やすらぎ会広報委員〉

佐藤陽子 佐々木愛子 近藤富子
高橋 渉 高橋みどり

在宅での介護のお悩みは

在宅介護支援センター まで

○支援センター直通 (平日8:30~17:30)

8 5 — 2 3 1 9

○土・日・祝日、夜間 (17:30~8:30)

8 5 — 2 3 2 2

※特別養護老人ホーム「ぶなの園」寮父母対応

お気軽にどうぞ